



# ケツロナイン

ホルムアルデヒド放散等級  
F☆☆☆☆  
NSK - 0305329

防火材料認定品  
不燃材料 NM-8572  
準不燃材料 QM-9812  
難燃材料 RM-9361

「ケツロナイン」は、菊水化学工業が結露に取り組んで35年の実績がある結露防止塗料です。  
下塗材との組み合わせにより多くの下地への塗装が可能で、仕上りも「平吹き状模様」「ゆず肌状[ローラー]模様」「小凹凸状模様」が選べます。

## 特長

### 01 結露防止性能

塗膜厚1mmで1㎡当り600mlの結露水を吸収します。

### 02 優れた調湿性

湿度の高いときは湿気を吸収し、湿度の低いときは放湿するため、室内の湿度の急激な変動をやわらげます。

### 03 防藻・防カビ性

高い防藻・防カビ性能を発揮します。

### 04 防火材料認定品

防火材料認定品です。

## 用途

建築物内の結露防止・調湿

- ・住宅、マンション等の居室の結露防止、調湿及び浴室（直接水掛りのある部分への施工は不可）、台所、押入等の結露防止
- ・店舗、事務所、学校、病院、工場、倉庫及びその他建築物、構造物内の結露防止
- ・体育館など大型建築物の鉄骨柱、折板裏の結露防止

## 適用下地

- 下塗りにカビフージ A (水系タイプ)を使用する場合
    - ・コンクリート、モルタル ・OP、EP、VP下地(塗膜状態の良い場合)
  - 下塗りにカビフージ B (弱溶剤タイプ)を使用する場合
    - ・カラー折板、石膏ボード、漆喰、ビニルクロス ・OP、EP、VP下地(チョーキング等化がある場合)
- ※別紙「鉄骨・鋼板結露防止工法」もご覧ください。

## 標準施工仕様

仕上げ	工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間	所要量(塗付量)	
各種共通	素地調整	ゴミ、未硬化セメント粉末、粉塵、油脂などの付着物をワイヤーブラシ、かわすき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清潔な面とします。					
	下塗り	カビフージA 主材: 17kg 清水: 9~17L	刷毛、エアレススプレー ウルローラー等	1	3時間以上 (23℃)	150~180㎡/17kg 0.09~0.11kg/㎡ (0.1kg/㎡以下)	
又は カビフージB 主材: 14kg 無希釈		刷毛、エアレススプレー ウルローラー等	1	3時間以上 (23℃)	70~140㎡/14kg 0.10~0.20kg/㎡ (0.2kg/㎡以下)		
平吹き状模様	主材塗り	ケツロナイン 主材: 18kg 水: 0~1.0L	リシンガン 口径: 4~6mm 吹圧: 0.5~0.6MPa	1	—	15~23㎡/18kg 0.8~1.2kg/㎡ (1.1kg/㎡以下)	
ゆず肌状 [ローラー]模様	主材塗り	ケツロナイン 主材: 18kg 水: 0~0.2L	多孔質ローラー	1~2※	工程内 24時間	15~18㎡/18kg 1.0~1.2kg/㎡ (1.1kg/㎡以下)	
小凹凸状模様	主材塗り	基層塗り	ケツロナイン 主材: 18kg 水: 0~1.0L	リシンガン 口径: 4~6mm 吹圧: 0.5~0.6MPa	1	4時間以上 (23℃)	23~30㎡/18kg 0.6~0.8kg/㎡ (0.7kg/㎡以下)
		模様塗り	ケツロナイン 主材: 18kg 水: 0~1.0L	リシンガン 口径: 4~6mm 吹圧: 0.2~0.3MPa	1	—	36~60㎡/18kg 0.3~0.5kg/㎡ (0.4kg/㎡以下)

(注) ①上記の各数値は、全て標準のものです。施工方法、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。

②下塗材は、適用下地に応じて選択して下さい。

③カビフージBは弱溶剤製品ですので、お取扱いの際は、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法などを厳守して下さい。

④内装制限のある部位を施工する場合は、塗付量を厳守してください。

※多孔質ローラーでの増し塗りする場合は、増し塗り塗装前に適度な水湿しを行ってください。水湿し面の水が引いたのち主材塗り見本と同様となるように注意して、施工を行なって下さい。(ケツロナインは吸水する特徴があるため、主材(1層目)を適度に湿らせた方が安定した仕上がり形状(パターン)を得られやすい材料です。)



## ケツロナイン

艶消し



## 荷 姿

カビフージA	NET	17 kg/缶入
カビフージB	NET	14 kg/缶入
ケツロナイン	NET	18 kg/缶入

## 注意事項 (内装用塗料)

## 【施工上の注意事項】

- 下地がコンクリート、モルタルの場合は、下地の乾燥を十分行ない、含水率10%以下、pH10以下で施工してください。
- 汚染物の除去は水を含ませた清潔な布で拭き取り、乾いた布で乾拭きして乾燥させて下さい。汚れがひどい場合は水で中性洗剤を薄めて拭き取ってください。
- かびや藻が発生している場合は、塩素系漂白殺菌剤「KSKクリーナー」などで殺菌洗浄を行ってください。
- ヤニ、シミが著しい場合は水拭き後、下塗りとして水系シミ止め白色下塗材「シミナイト」を使用してヤニ止めを行った後上塗りを行ってください。
- コンクリート下地の目地線の劣化が著しい場合や吸込みの著しい場合は、劣化塗膜を除去した後、「キクスイ浸透性プライマーモ」や「キクスイSPパワーシーラー」を使用してください。
- 押出成形セメント板、GRC板、ケイ酸カルシウム板などには、下塗りとして「キクスイSPパワーシーラー」や、「キクスイプライマーEPW」を使用してください。
- A/Cやコンクリートなどで集り、段差などがある場合は、セメント系下地調整塗材BR#15等で処理してください。
- 布クロス、絨クロス、汚染防止加工されたクロスには塗装しないでください。剥離を起す場合があります。
- プラスチックボードなど（テカ）部とそれ以外の面で吸込み性の違いで色むらなど仕上がりに影響が出る恐れがありますので、下塗りを塗装して均一状態にしてください。
- ドアのゴムパッキン、塩化ビニルなど可塑剤を含むものやシーリング材への塗装は塗膜の汚染、剥離などが起こる場合がありますので塗装しないでください。
- 下地が弾性塗膜の場合には、弾性系塗料を使用してください。
- 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合、(高湿度、結露、降雨等)塗膜表面が白化する場合があります。施工場所の気温が5℃以下、湿度85%以上又は結露の発生が考えられるなど、水分の影響を受ける可能性がある場合は、施工を行わないでください。また、低温又は高湿度時は、乾燥が速くなりますので施工を行わないでください。
- 外部の施工で降雪、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を行わないでください。
- 絶えず結露が発生するような部位、場所への塗装はしないでください。
- 施工時は換気を十分に行ってください。
- 施工時は換気防止として養生は十分に行ってください。
- 施工面とその周辺 (車や付帯設備を含む) や床などに汚染や損傷を与えないよう注意し、必要に応じて、あらかじめ施工面周辺に適切な養生を行ってください。
- 材料は均一にミキサーで攪拌してから使用してください。
- 材料の希釈量は所定の量により、所定の所要量を守り事前の試験塗りなどで決定してください。希釈の過多、不足はたれや艶への不足、仕上がりムラの原因となります。
- 各種準拠施工仕様(記載)の所要量及び間隔時間を守って施工し、適正な塗付量を確認してください。
- 色、模様は決定した時点で事前にサンプルで確認してください。
- 被塗物の形状、凹凸、糸回数、糸径などの違いにより実際のつやと異なって見える場合があります。また、刷毛・ローラー塗装時の塗料を箇所でもりこみする場合があります。特に製膜剤は、被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね塗料の調製箇所により、実際の艶と若干違って見える場合がありますので、試し塗りを上、本施工してください。
- 既存塗膜の剥離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ローラー塗りの場合は、ローラー目とは同一方向に揃えるように仕上げて下さい。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- 膜などで補修塗りが必要な場合がありますので、補修用に使用塗料の控えを取っておき、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください。
- 他の材料と混合しないでください。
- 水性塗料には動物毛の刷毛は固まり塗料に支障が出ますので化繊の刷毛を使用してください。
- 上塗りのローラー塗装において、綿毛のローラーで水系塗料を塗装し、泡が発生した場合は、糸毛のローラーを使用してください。
- 使用後は刷毛やローラーなどは十分に洗浄してください。

- 溶剤系の製品を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。
- つや調整剤は、はけ、ローラーでの塗装はムラが出やすくなります。スプレー塗装をお勧めします。
- つや調整剤は、塗料が分離しやすいので、良くミキサーで混ぜながら使用してください。
- 刷毛塗り、ローラー塗り、スプレー塗りが混在する場合、施工方法の違いで若干の色相差が生じます。希釈量を調整するなどして塗装してください。
- 白色や原色に近い色彩では塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などに触れる可能性のある部位への施工は行わないでください。施工する場合は、クリーンによる保護塗装を行ってください。
- 上塗りに黄色、赤色、青色、緑系の彩度の高い色を塗装する場合、隠へ性が不足する場合がありますのであらかじめ中塗りとして灰色を塗装してください。
- 希釈した材料を後日使用すると、色相が変わる場合があります。希釈した材料は、その日のうちに使い切るようにしてください。
- 防藻、防カビ効果は、繁殖を抑制するものです。施工部位の形状、構造、環境条件によっては防藻、防カビ効果が十分に発揮されない場合があります。また、すでにカビ、藻が繁殖している場合は、下地処理として除去及び殺菌処理を行ってください。
- 直射日光下や屋外、0℃以下での保管はしないでください。
- 建築用仕上塗材 (JIS A 6909) 複層塗材および可成形改修塗材は、下塗材・主材・上塗材を同一メーカーの指定された製品を使用しないと、JIS規格品とはなりません。

## 【安全衛生】

- 製品の取り扱いについては一般的な注意事項の詳細はSDS(安全データシート:旧MSDS)を参照してください。
- 取扱後は手洗い、うがいを行ってください。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、防毒・防塵マスクなどを着用してください。
- 火花を発生しない工具を使用してください。
- 屋外または換気の良い場所のみとし、火気厳禁にしてください。
- 必要な増量以外は、環境への放出を避けてください。
- 製品の組み合わせは、防壁型ミキサーで行ってください。また、必ずアースを取ってください。
- 火災時は、炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。
- 目に入った時は速く流水で洗い、速やかに医師の診断を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は速やかに医師の診断を受けてください。
- エボキ・有機系の材料は、皮膚にかぶれを引き起こす恐れがあります。皮膚に付着しないよう特に注意してください。
- 皮膚についた場合は、多量の水と石鹸で洗ってください。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断を受けてください。
- 粉じん、揮発物等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、安静にし、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- 使用後保管する際は無希釈の状態ですっきり密栓して40℃以上の場所では保管しないでください。できるだけ早く目録に使用してください。
- 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。
- 保管場所、取り扱い場所とその周辺には、塗装中、乾燥中に、熱、火花、高温体のような発火源を遠ざけ火気厳禁とってください。取扱いは、法令に沿って保管を行い、特に乾燥中は蒸発の面積が広くなるため、短期間引火性の高い蒸気が発生します。注意してください。
- エボキ・有機系の材料は、電気絶縁性の床で材料の保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の服を着用してください。
- 子供の手の届かない所に保管してください。
- 塗料や塗料の付いた布などを処分する際は、法令に従い産業廃棄物として処理してください。
- 塗料、塗装器具を洗浄した汚水、塗料の付いた布などはそのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処理してください。

取扱店



菊水化学工業株式会社

本社 名古屋市中区錦2丁目19番25号 日本生命広小路ビル  
☎ 052-300-2222(代)

仙台支店 ☎ 022-706-5710

東京支店 ☎ 03-3981-2500

名古屋支店 ☎ 0568-69-5200

関西支店 ☎ 06-7668-5320

福岡支店 ☎ 092-935-4610

●ホームページアドレス <http://www.kikusui-chem.co.jp/>